



和歌山県岩出市からの視察

(狭山中学校)

12月5日(月)に中学校の先生方が視察に来られました。狭山中学校が言語能力を高めるために取り組んでいる音読等の実践やICT機器の活用、学習評価の考え方など、学力向上の取組みについて授業を参観、教員と意見交換をしました。

主体的に取り組む生徒の姿が本当に素晴らしいと驚いておられました。



国語の授業づくりモデル小学校の

学校公開(第七小学校)

12月1日(木)の学校公開では、子どもたちにつけたい資質・能力を明確にし、さまざまな言語活動が展開されていました。

2年生の「ビーバーの大工事」の授業では、ビーバーの行動と体の構造とを関連付けた効果的で必要性のある交流が設定されていました。

また、4年生の授業では、題材の全文を掲示し、文章全体を俯瞰(ふかん)して捉える場の設定がされており、どのような工夫に着目するかについて、交流していました。



他市からは7名の参加があり、8ヶ月間、全教職員がつけたい力をもとに学習のゴールを設定し、同じ観点で国語の授業づくりについて取り組んできた成果を共有することができました。

国語の授業が好き、自分の考えを伝えるときに相手や目的などを意識して伝え方を工夫している児童の割合が大幅に増加しています。また、「文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけ、記述する」に関する問題の正答率が向上しており、学校として取り組んできた成果が見られます。

学校図書館を充実・活用するための

モデル校の学校公開(第三中学校)

12月12日(月)、学校公開がありました。学校図書館のモデル校として3年目の集大成となる本年、今までの積み上げてきた取組みが実を結んでいることが実感できる授業でした。

他市からは2名の参加があり、調べる内容が図書、インターネットのどちらを活用した方が効果的かを自分で判断、適切に情報処理できている生徒が増えていることについて、授業の様子や実践発表を通して共有しました。



3年間を通して、学校図書館の充実を図り、読書活動を推進してきたため、貸出冊数は大幅に増え、学校図書館が子どもたちにとって安心できる居場所となっています。

安全安心スクール

危機管理室と堺市消防局のスタッフさんのご協力により、市内各中学校の3年生を対象にした安全安心スクールを実施しました。いざという時、次世代を担う中学生が身近な人を助けるために、胸骨圧迫の方法やAEDの使い方を学びました。

「周囲は安全です!」、「誰か来てください!」、「あなたは119番お願いします!」と実際の場面を想定して行いました。はじめは恥ずかしそうにしていたのですが、何度か練習すると、しっかり声を出して取り組むたくましい姿が見られました。



心肺蘇生トレーニングツール「あっぱくん」を使って1分間圧迫にチャレンジ!うまく押せると音が出ます。心臓はポンプと同じ。押してから、もどす!が大切です。

いざという時のためにしっかりと練習!子どもたちの真剣な姿に「たのもしさ」を感じました。

